短 報

単純ヘルペスウイルスによると思われる成人呼吸促迫症候群
の診断に気管支洗浄液の細胞診が有用であった1症例岐阜県厚生連岐北総合病院病理¹⁾, 同 内科²⁾, 岐阜大学医学部病理学第1講座³⁾戸島 敏¹⁾ 新井 正²⁾ 吉見 直己³⁾ 安田 洋²⁾

I. はじめに

近年, 単純ヘルペスウイルス (以下 HSV) による肺炎の症例報告がみられる. 今回われわれは, 感冒様症状にて発症した ARDS の症例において, 気管支洗浄液細胞診からヘルペス感染細胞を観察し, *in situ* hybridization (以下 ISH) 法にて HSV-DNA を検出し, 抗ウイルス剤を投与したことにより急速な改善がみられた症例を経験したので報告する.

II. 症 例

症 例: K.F., 73 歳, 男性

既往歴: 脳血栓, 発作性心房細動, 肝炎

家族歴: 特記すべきことなし

現病歴と経過: 脳血栓後遺症, 発作性心房細動にて当院に外来通院していた. 平成4年3月になり, 心房細動発作を繰り返すようになった. 同年4月14日頃より感冒様症状とともに頑固な抗不整脈剤抵抗性の心房細動となったため4月23日入院となった. 入院時の胸部X線写真では, 特記すべき所見を認めなかった

A case of adult respiratory distress syndrome with herpes simplex virus usefully diagnosed by cytology of bronchoalveolar lavege fluid

Satoshi TOSHIMA¹⁾, C.T., I.A.C., Tadashi ARAI²⁾, M.D., Naoki YOSHIMI³⁾, M.D., M.I.A.C., Yo YASUDA²⁾, M.D.

¹⁾Department of Pathology, ²⁾Department of Internal Medicine, Gihoku General Hospital

³⁾The 1st Department of Pathology, Gifu University School of Medicine

論文別刷請求先 ☎ 501-21 岐阜県山県郡高富町高富 1187 の 3 岐阜県厚生連岐北総合病院病理 戸島 敏

平成6年7月5日受付

平成6年9月9日受理

が, 第9病日に呼吸困難が出現し, このときの胸部X線写真で, 左右全肺野にびまん性スリガラス状陰影がみられ, スワンガンツカテーテルにて心不全を否定したことから, ARDS と診断した. ただちに, ステロイドパルス療法やウリナスタチン投与などを実施したが改善傾向を認めなかったため, 第22病日に気管支鏡を行い, 気管支洗浄を実施した. このときの細胞診にてヘルペス感染細胞が観察されたことから, ヘルペスウイルス感染による ARDS と診断し, 抗ウイルス剤 (アシクロビル) を投与し, その後急速に改善し退院となった.

細胞診所見: 第22病日に左舌区より採取した気管支洗浄液の細胞診標本から観察された細胞像 (写真1a) を示す. 好中球が目立つ炎症性の背景のなかに大型の多核細胞が散在性に認められた. 細胞質はライトグリーン好染性で核は3~5核で多核で圧迫した配列がみられ, 核内構造は無構造でスリガラス状を呈しヘルペス感染細胞と診断した. 写真1bは細胞診標本に

写真1 a: 多核を示す感染細胞 (Pap. 染色, $\times 1000$)
b: ISH 法により陽性を示す感染細胞 ($\times 1000$)

ENZO 社製の PathoGene キット (単純ヘルペス用) を用いて ISH 法をほどこしたものである。核が赤褐色に陽性に染色される感染細胞が観察された。

III. 考 案

1982 年, Tuxen ら¹⁾は人工呼吸管理を必要とした 72 例中, ARDS と診断された 46 例のうち 14 例 (30%) と高率に HSV 肺炎を認めたと報告している。しかし, HSV 肺炎が生前に診断されたものは少なく, また, HSV 肺炎の報告例の多くは, 重篤な基礎疾患を有するものが多く, 予後も不良とされている。HSV 感染症を細胞診で診断しうるのは 1963 年 Stern²⁾らが最初に報告したが, その後, その細胞形態などについて多くの報告がなされた。HSV 感染細胞の特徴所見は炎症性背景に加え, 多核形成, 核の molding, 核のスリガラス様変化とされているが, われわれの症例でも同様の所見が確認された。また, ヘルペスウイルス感染細胞と鑑別すべき細胞としてサイトメガロウイルス (CMV) があるが, CMV 感染細胞は多核形成はみられず, 2 核までであり, 細胞質封入体がみられる点から形態学的鑑別が可能であった³⁾。さらに細胞診標本を脱色し, ISH 法による HSV-DNA の検出

ができ HSV 感染細胞と診断した。以上より, 気管支鏡を施行し気管支洗浄液を用いた細胞診断を行うことは, 悪性細胞の検出のみならず, ウイルス感染症の診断に有用であり, さらに, 酵素抗体法あるいは ISH 法を行うことが, 感染症の鑑別診断に有用と考えられた。

本稿にご協力をいただいた岐阜総合病院内科成宮茂利先生, 高屋忠丈先生, 早川和良先生に厚く謝意を表します。

なお本論文の要旨は第 35 回日本臨床細胞学会総会 (1994 年 6 月松江市) にて発表した。

文 献

- 1) Tuxen, D.V., Cade, J.F., et al. : Herpes simplex virus from the lower respiratory tract in adult respiratory distress syndrome, *Am. Rev. Respir. Dis.*, 126 : 416~419, 1982.
- 2) Stern, E., Longo, L.D. : Identification of herpes simplex virus in a case showing cytological features of viral vaginitis, *Acta Cytol.*, 7 : 295~299, 1963.
- 3) 佐々木政臣・他 : サイトメガロウイルス感染症の 1 例, *日臨細胞誌*, 30 (3) : 588~592, 1991.